

海の安全推進アドバイザー就任について

本年度から海の安全推進アドバイザーを拝命させていただいているアクア船舶鑑定株式会社新田肇と申します。私の本業はいわゆるマリンサーベイヤーという職種で主にプレジャーボートの海難発生後、海難現場やその当事者に面談し海難発生経緯の確認、船舶間の責任割合や修繕費用の算出・算定などを実施しており、その作業の依頼人は保険会社や裁判所などです。

祖父の代からマリンサーベイヤーとして活動をさせていただいておりまして、祖父は先の大戦直前で船乗りから陸上勤務となり満州から引き上げ昭和31年に現在の会社の前身を横浜中区で創業を致しました。祖父が創業した年に私はこの世に生を授かりました。そんな関係で私の子供の頃は海・船をはじめとし祖父や父の仕事に関わる事柄が多い中での記憶がほとんどです。

そんな私の大学時代は「端艇訓練班」といういわゆるカッター部で4年間を過ごし毎日毎日清水港でオールを握っていました。今にして思うとあんな重いオールを握りよくぞ漕いでいたなと思いますし、全日本カッター大会などに参加した際には国内の関係学部の選手達と2,000メートルをよくぞ漕ぎきっていたものであると当時の私達が誇らしく思えます。元々海洋環境の調査・保全に興味がありその道の大学に進みその種の知識を身につけさせていただきましたが、そのことが社会に出てから役に立ちだしたのはつい2~3年前からです。そのことについては改めて皆様にお伝えしたいと思います。

今回は毎日カッターを漕いでいた私が何故今の職業を生業としたのかについて少し話をさせていただくことによって皆様との距離が少しでも近くなることを期待しています。そもそも私は中学・高校と全寮制の学校に通っていました。そのときの生活は海とは全く関係がありませんでした。7年間寮生活の内1年間は豪州のキャンベラという都市の高校に交換留学生として滞在していました。豪州といえばマリンスポーツのメッカな国です。キャンベラは海から遠い都市ですが週末ともなるとトレーラーボートで近くの湖に出かける、シドニーやメルボルンや近くの海に出かけるということも特別なレジャーでは無くちょっとそこまで遊びに行く程度という感覚でした。その1年間は私にとり現在のマリンレジャー界に身を置く根底となったといっても過言ではないと思っています。

海に関するレジャーは多岐にわたります。ボート遊び一つをとってもボートを乗用具として考えると「ダイビング」「底釣り」「水上スキー」「ウェークボード」「パラセール」などがあります。当然いわゆるミニボートからメガボートまでボートの種類だけでも多くあります。当たり前のことだと思いますがボートの数だけ遊び方があると言うことを体験できていた期間です。「漁船」「遊漁船」「商用船」はそれぞれの目的をもって建造され運航されることが一般的ですが、プレジャーボートはその数だけ利用方法が異なるというものです。その遊び方一つ一つに個性がありその中で共通する「マナー」「ルール」がどのように守られているかで海難の発生の形態や数が変わってくるものだと思います。

人の数だけ人生があると同時にボートの数だけ遊び方がある、そして海難が発生するそ

もその根底には人の数だけ「危険の認知の度合いや程度が異なる」「回避行動の方法が異なる」と言うことでもあると思っています。高校時代の1年間そのような環境下で育ったことで、多種多様な考え方を先ず受け入れることが全ての問題解決の一步であると考えようになったと思っています。つまり「こうあるべきである」ということは一般論でありその「道」を歩くことが最も安全ではあるものの、その「道」を歩き続けることが出来ないために人生にはいろいろな「喜び」「驚き」「苦難」があるものであると感じています。そしてその人の「道」を理解した上で「何故」「どうして」その道を選択したのかを理解しようとするのが海難の防止にも多少ではありますが結びつくのではないかと最近では考えるようになってきました。

私の生業であるプレジャーボートの損害鑑定の根底にはこのような考えが存在していますが、私がこの種を生業とさせていただきだしたのは今から40年ほど前のことです。我が国では「プレジャーボートのサーベイヤー」という職種は今でも存在していません。総称して「マリンサーベイヤー」という業種に位置づけられています。私がどのような経緯でこの種の業種に身を置くようになったのかは次回以降での紹介と致します。